



西村証券

チーフストラテジスト
門司総一郎の

ウィークリーレポート

2020年
4月20日
発行

第28回 「新型コロナが大統領選に与える影響」

～ トランプ大統領の再選はない ～

初めに

これまで当レポートは、今年の米大統領選について「トランプ大統領の再選はない」と主張して来ましたが、しかし、新型コロナウイルス感染症（以下、新型コロナ）拡大の影響により選挙の先行きも不透明感を増しており、実施そのものを危ぶむ声も出ています。今回は、新型コロナの影響との観点から、米国の大統領選について考えてみます。

大統領選挙は実施できるのか

米大統領選に関するそもそもの問題は、選挙を実施できるかどうかです。共和党、民主党の候補者が事実上確定しているため、大きな問題にはなりませんでしたが、予備選では新型コロナに伴う外出規制などから、投票が延期された事例がありました。大統領選実施予定日の2020年11月3日まで、外出規制が継続される可能性は低いと思いますが、一応この点は指摘しておきます。なお、外出規制が継続された時の対応策については、選挙の延期や郵送による投票などが挙がっていますが、現時点において明確に定められたルールは無いようです。

フランクリン・ルーズベルト大統領は有事（第二次世界大戦）であることを理由に当時の慣習である2期を越え、4期大統領を務めました。現在は法律で2期までと規定されていますが、もしも今回の選挙が実施できない場合、トランプ氏が有事であることを盾にとって続投を主張することは考えられます。

候補者双方への新型コロナの影響

ここからは選挙の見通しについて検討します。まずは新型コロナが候補者それぞれに与えた影響についてです。双方ともプラスとマイナス、両方の影響があります。

トランプ氏にとってのプラスの影響は、危機対応時にリーダーシップを示すことができたことです。通常、選挙の際の災害は現職有利に働くことが多いのですが、トランプ氏もこのチャンスを生かしたと思います。一方、マイナスの影響は、新型コロナの影響によって最大のアピールポイントだった好景気と株高を失ったことです。株価は水物なので、今後急上昇する可能性もあるかもしれませんが、景気、特に雇用の回復には時間がかかりそうです。

バイデン氏にとってのプラスの影響は、新型コロナに伴う外出規制等の影響により、サンダース氏が予備選を早めにリタイヤし、バイデン氏支持を表明したことで党の分裂を回避できたことです。マイナスの影響は、新型コロナのために集会を開けず、選挙運動があまり進んでいないといったところでしょう。

トランプ氏の再選はない

最後に選挙の見通しです。新型コロナの影響については、トランプ氏にとっては景気悪化によるマイナスの影響の方が大きく、対するバイデン氏については、前回の大統領選で民主党敗北の主因の1つとなった党の分裂を回避できたことが選挙にプラスの効果をもたらすものとみています。よって、今回の大統領選でトランプ氏の再選はなく、バイデン大統領が誕生すると予想しています。

西村証券株式会社 NISHIMURA SECURITIES CO., LTD.
京都市下京区四条通高倉西入立売西町65番地(本社)
TEL:075-221-9390(本店営業部)

金融商品取引業者 近畿財務局長(金商)第26号
加入協会:日本証券業協会 主な事業:金融商品取引業
指定紛争解決機関:特定非営利活動法人 証券・金融商品あっせん相談センター

本書面は特定の金融商品の勧誘を目的として作成したのではなく、あくまで情報提供を目的とした書類です。書面上の株式市場見通し等は、本書面作成時の当社予想ですが、その後の市場動向・結果・影響等について当社が保証または責任を負うものではありません。また内容については予告なしに変更される場合もあります。本書面の著作権は当社に帰属します。当社の文章による承諾なしに、第三者への配布・コピー等のご遠慮ください。